

各地での団体の取組み(5)



【旭川市】

ペーパンフォレストサービス ～地域森林資源活用と移住者の定住にむけて 報告者 大橋 孝司 氏

「ペーパン」は地区の名前で、旭川市にあります。東旭川町の瑞穂・米原・豊田の3地区の総称がペーパンと言われています。大雪山から石狩川の支流、漢字では米の飯と書き、アイヌ語で甘い水という意味です。ここは旭川の米どころです。旭川市街地からも旭川空港からも20km程度です。現状として急速な過疎・高齢化が進んでいます。地域にあった中学校は数年前に閉校となり、小学校は全児童で10名という状況です。その一方で自分を含めて移住者も入ってきています。しかし雪も多く、雇用も不安定なので数年経つと戻ってしまうという現状です。

まずペーパンフォレストサービスの構成ですが、ペーパン地区に住んでいる移住者12名で結成しました。平成27年度にこの交付金事業のためにつくった組織です。中心メンバーは私ともうひとりの林業従事者。対象の森林は、4名の個人の山で、総面積9.9haのうち6.5haが天然生林となっており、山林はすべてペーパン地区内にあります。構成員の職業は、農業・林業・養蜂業・動物園職員・主婦などです。年齢は30代が中心です。

組織の目的は、地域にある山林資源を活用して新たな仕事を創造しようということです。それによって移住してきた者の定住化を図り、さらに既存の産業も活性化できればと考え、この会を立ち上げました。今年は何をしようかと考えましたが、まず山の所有者に山をどうしたいかを時間をかけて聞き取りました。

所有者のニーズを最優先にした活動をめざしています。所有者に自分の山、地域の山に対する関心を高めてもらい、それによって所有者の方たちが「こうしたい」「これがあればいい」「こんな風になってほしい」というような意見を言える状況を作っていく。そうした中で自分たちの出来ること、やりたい事を仕事として見つけていきたいと考えています。

【事例紹介】

事例1. 農家民泊経営者が所有する山林

山林の所有者はかつて色々な事をしていました。炭小屋を作ったり薪で料理を作ったりして、宿泊者や地域の方をもてなしていましたが、現在は高齢となり活動が難しくなっていました。そこで私たちは気軽に歩けるような歩道づくりをしようと、笹刈りや土な

らしをしました。さらに壊れて捨てられていた炭釜の片付けや冬に向けて薪を作ったりしました。

事例2. 動物園職員が所有する山林

動物園職員ということもあり、生物多様性を最大限に高めた森林にしていきたいという希望でした。もっと自分の山で歩いてリフレッシュできる空間にしたいが、仕事が忙しく作業する時間がないためにインフラ整備をしてほしいという依頼でした。そこで私たちは歩道や休憩所を作りました。笹を刈ったり、太くて枯れかかった木を抜倒し、チェーンソーで板にしたりしました。冬は主に薪作りをしました。

事例3. 養蜂家が所有する山林

自分の山で蜜をつくりたいという希望です。山の一部に未立木地があるが、笹が生えている。ここを整備して蜜源植物を植えたという依頼でした。そこで地域の人に養蜂業を理解してもらい、自分の蜂蜜を販売したいという目的があります。毎年ヒグマが蜂蜜を狙ってやってくるため、地域で対策してほしいと願っていましたが、アクションを起こすきっかけがありませんでした。今回この活動を知り、ぜひ参加したいということで林業と養蜂業のコラボレーションとなりました。実際の活動はヒグマ対策として山林内の藪の刈り払い、未立木地を重機等で整備して、蜜源植物を植える作業を行いました。

植物を植えるだけでなく、地域の人に理解してほしいという希望があり、小学校の児童を呼んで植林をおこないました。苗木は山に入って種子をとってポットに入れて苗づくりから行いました。



事例4. 農家が所有する山林

新規就農家で、農地と山林も取得したが、どう利用したらよいかわからないため、一緒に計画を考えて活動しようという提案を受けました。

山林に溜池があり、ここに魚を飼って釣堀にするという計画となり、周辺の笹を刈ったり、危ない木を切ったり、一部崩れたところに橋を架けたりしました。

農家民泊経営者の山林での活動内容

歩道の整備



風倒木処理



炭窯の復旧準備



資源量調査



動物園職員の山林での活動内容

歩道・休憩所の整備



風倒木・枯損木処理&加工



新規就農家の山林での活動内容

ため池周辺の環境整備



【まとめ】現状と課題

山林の所有者の方たちには非常に喜んでいただきました。さらに所有者からいろいろなアクションプランも上がってきました。森林サービスに期待するニーズがあることがわかりました。こうした活動を通して、地域の中で新しい動きが芽生え始めたようです。しかし所有者の方に資金提供をいただくのは難しい状況です。自分たちも無償で活動するのは厳しいです。交付金が終了すると、事業も継続できなくなるのではないかと懸念もあります。

しかし、この会の目的は、仕事の創出です。今やっていることだけを継続するのではなく、さらに所有者の意識を高める活動をしていく予定です。

そして、薪炭生産の事業化を計画しています。薪は容易に作るができますが、差別化が難しく、炭が有利です。現在、私は白老町の炭焼き職人から炭づくりを学んでいます。

来年度は旭川ペーパーに戻り、炭づくりをやっていきたく考えています。来年度は、薪炭づくりのための資機材、原木を搬出するための資機材を導入していく計画です。今年が初年度なので、残り2年で生産のための拠点をつくりたいと考えています。

しかし、来年度以降、炭や薪づくりの補助が1/3に減ってしまうとの話がありました。日本の里山は薪炭林だと思っているので、補助が減るのはたいへん厳しいと思います。

また、いくら補助金があったとしても、それだけでは賄いきれません。私たちは資金も森林も持っていないため、今後、生産拠点、原木を確保していくために、地域の方の理解と協力が不可欠です。

現状では移住者が集まって、何かやっているという事で終始しています。もっと地域の方に参加してもらいたい。この交付金というと、教育研修活動を地域を巻き込んで行う必要があり、もっとアピールして関心を持ってもらい、交付金終了後には独り立ちできるようにしたいと考えています。

最後に、地域にある山林の資源を持続可能な方法で活用して、森と全てがつながっていることを意識しながら生活できるような社会を作っていきたいと考えています。